この土地で生きることの祭り

益子流の「地方創生」

土祭 2015 企画概要発表資料

2015 年 4 月吉日

栃木県益子町 土祭事務局

2015.9

土祭

Living with the Earth

企画概要発表資料目次

P04 開催概要
P05 開催にあたって　実行委員長より
P06 土祭とは｜土祭の作り方
P07 土祭とは｜益子の風土・風景を読み解くプロジェクト
P10 土祭とは｜風土・風景の読み解きを活かすということ
P11 土祭とは｜土祭の概念と方針
P12 土祭の内容について｜５つのテーマとプログラム概要
P20 土祭の内容について｜日程の構成と会場の構成
P21 土祭 2015 チームメンバー

「この土地で生きること」は

継ぐこと、　識ること、　澄ますこと、
照らすこと、　結ぶこと。

益子町は、この秋、

新月から満月にかけての 16 日間

第 3 回土祭/ヒジサイを開催します。

1.開催概要

名称｜土祭 2015　Living with the Earth

会期｜2015 年 9 月 13 日［日/新月］から 28 日［月/満月］まで

会場｜益子町内各所

主催｜土祭実行委員会　共催｜益子町
実行委員長｜大塚朋之
企画制作・運営｜土祭事務局＋土祭企画運営委員会

内容｜展示、演奏会、市場、セミナー・演劇・映画・ワークショップほか
パスポート｜500 円（中学生以下無料）　益子町民無料
展示鑑賞や演劇・映画・セミナー・ワークショップへの入場や参加にパスポートが必要です
ガイドブック｜別売り　8 月 20 日発行予定　1000 円

公式ウェブサイト｜http://hijisai.jp
2009 第 1 回土祭・2012 第 2 回土祭のアーカイブも公開しています。
公式 Facebook ページ｜https://www.facebook.com/mashikohijisai
春フライヤー4 月末、夏フライヤー・ポスター 7 月中旬、配布

お問い合わせ｜益子町産業建設部観光商工課土祭事務局
TEL:0285-72-8873　平日 8:30-17:15　E-mail:info@hijisai.jp

２.開催にあたって

実行委員長　益子町長　大塚朋之

「デタ。デタ。メガデタ。」

これは、空き店舗だった所が、土祭の中でアートの展示会場になり、
さらに土祭後に「ヒジノワ」というカフェとしてオープンする際に、
土祭の総合プロデユーサー馬場浩史氏から贈られた言葉です。

土祭は、「文化の力で、地域を元気にする」という計画のもとに生まれました。
だからこそ、開催の度に地域の歴史や文化、様々な資源を掘り起こし、
また「益子ならではの文化」を問い続けてきました。

アートの展示や様々な企画の会場は、益子町の、
そしてそれぞれの地域にとっての「ツボ」とも言える場。
各回の土祭の中で、アートとともに照らされた「ツボ」は、
前述のカフェの様に再生され、地域に「希望」をもたらしています。

第３回目となる今回は、皆さんにご覧いただく会場はさらに広がり、
今まで紹介しきれなかった新たな、そして昔からそこにあった「益子」を
再発見していただく機会にもなります。
地域の人々が、アーティストとともに織り成す、
それぞれの地域の「希望の芽」をぜひ高覧下さい。

３．土祭とは

「土祭とは何なのか？」について、まず、その作り方という視点から、次に概念や方針についてお伝えします。

3-1 土祭の作り方

土祭は、アートイベントではなく、祭りと呼んでいます。
風土に根ざした新しい祭りとして育てていきたいと考えています。
そもそも、私たちの風土とは何なのか？
3 回目となる今年の土祭は、「そもそも」に立ち返ることから始めました。

｜誰が？｜
町に暮らす人が中心にいる祭りとして、育てていく

第１回第２回と総合プロデュースをお願いしてきた馬場浩史氏が 2013 年夏に他界され、
私たちは大きな柱を失いました。今回は、新たにプロデューサーを迎えるのではなく、
外部専門家などの協力を得ながら、町民の手によって土祭を作り上げていくこととしました。
2014 年初夏より、７名の町民にワーキンググループメンバーを、７名の方に地域リーダーをお願いし、役場土祭事務局とともに「企画運営委員会」を組織しています。
→P21「土祭 2015 チーム体制」

｜何をもとに？｜
企画の基礎とするのは、地域ごとに読み解き共有していく風土

これまではプロデューサーの益子の風土観に頼りながら形作ってきた土祭を、
その幹の部分はしっかり受け継ぎながら、町民の祭りとして根を張り枝葉も広げていこうと、
自分達の足下の風土をあらためて掘り起こし、知り、共有し、
それを活かしていくしくみを作りました。

｜どうやって？｜
そのしくみが、2014 年６月にスタートさせた「益子の風土・風景を読み解くプロジェクト」です。
第３回土祭の基礎となる取り組みを、企画書から抜粋して紹介します。

3-2 益子の風土・風景を読み解くプロジェクト

１概要

風土研究の専門家を招き、地域住民と共同でフィールドワークや聞き取りなどを行い、
地域の風景を通して風土を読み解いていく作業を重ね、成果をまとめる。
その過程及び成果は広く共有し、土祭企画の基礎、および益子町の地域経営や町づくりの参考とする。

２企画の背景・経緯

・第１回第２回と、事務局とともに土祭の基礎となる世界観・益子の風土観を作りあげてきた
　総合プロデューサーの不在（2013 年他界）により、そのポストを置かずに
　外部専門家や町民との協働チームで第３回を作り上げていくこととした。
・第３回土祭の土台や世界観の形成については、個人に頼るのではなく、
　あらゆる職業の町民や様々な地域で暮らす町民にとって共有のものと言える「土地の風土」を、
　いまいちど掘り下げて共有した上で、それを基礎とすることとした。

３目的

・専門家と地域の方々と読み解いていく成果を、第３回土祭の企画や表現の基礎土台とする。
・その成果は、土祭だけではなく、地域経営や地域の景観整備、町づくりの施策などにも
　参考となる基礎としても繋げていくものとする。
・読み解きの共有を通して、地域の方々が、自分が暮らす土地への理解や肯定感、誇りを
　さらに持てるよう後押しする一助とする。
・このプロジェクトを通して、地域住民が広く参加し共有できるしくみや場を設け、
　土祭の開催目的などへの理解を深める一助とする。

４ディレクターの起用：廣瀬俊介氏（2014 年６月～

当プロジェクトを事務局・地域住民と協働で行う専門家として、環境デザイナーの廣瀬俊介氏に委託。

委託理由
実務家としては公園・道路・施設の外構などさまざまなランドスケープデザイン業務を行う際に、綿密な現地調査を、地理学・生態学・社会学・民俗学などの視点から多角的に行い、土地の風土を、風景を通して読み解く独自の方法論で、その読み解きを活かした、住民や行政職員と共同での地域経営や自治体の施策作成への参画にも実績があること。
研究者（地理学会会員・東京大学空間情報科学研究センター協力研究員）、教育者（2014 年３月まで東北芸術工科大学大学院准教授）であり、飛騨市（当時古川町）にて 1999 年災害復旧祈念　飛騨古川アートミーティング「濁流のあと」の企画・ディレクションを行うなどの実績があること。

……

５実施内容

・2014 年６月から、まず益子町全体の風土の読み解きを行い、
・次に同年 10 月より地域ごとの風土の読み解きを進める。
・その過程と成果を、会期前は主に町民を対象に共有して企画の基礎資料とし、
　次に、参加する作家や関係者へも提供・共有し、
・土祭会期中には来場者へも共有を図るよう、以下の５つの企画を行う。

［土祭会期前の企画］

①2014.6～ 益子町全域の風景を通して風土を読む踏査を実施

６月７月にかけて町内全域を廣瀬氏と事務局および企画運営委員会の町民メンバーなどと踏査や聞き取りなどを行い、益子町の全体像（地質・地形・風景からみえてくる特徴など）を共有する。その成果物として、廣瀬ディレクターは『土祭読本』に「益子の風景を通して風土を読む　緑の輪郭を持つ島」を寄稿。

②『土祭読本 わたしたちの風と土』（Ｂ５サイズ　48 ページ）を制作し町内全戸配布。

益子の風土に根ざした新しい祭り「土祭」のコンセプトや内容の周知を通して、私たちの町の風土風景・歴史・暮らし・表現を、もう一度見直し共有するための冊子とする。

③2014.10～ 地区ごとの風土・風景を読み解く踏査と共有の場「つどい」の開催

益子の風土の巨視的理解（町全体での基礎調査）に続き、町内を 13 のエリアにわけて、地区ごとの微視的理解を深める踏査および共有の場をつくる。

「つどい」開催地区と日程（時間は 18:30-20:30　場所は各地区の公民館）
１上大羽・栗生（10/19）　２西明寺（10/25）　３城内・一の沢（11/17）４道祖土（11/30）
５新町・内町・田町・栗崎・北益子・生田目・石並(12/15)　６山本（1/13）　７田野(1/24)
８小宅(2/14)　９大沢・北中(4/14)　10 七井(4/28)　11 下大羽(5/9)　12 塙(５/24) 13 星の宮（６/13）

地区ごとの「つどい」までの実行の流れ
１つどいの日時を自治会長と相談して決定し、広報や地区内への全戸配布チラシで周知する
２地域リーダーやキーパーソンの方に相談し情報収集を行う
３廣瀬ディレクターと事務局で踏査コースや場所の検討、事務局で聞き取り対象者のリストアップとアポ取り
４廣瀬ディレクターと事務局で踏査、聞き取り、資料収集などを行う。聞き取りについては、担当者が録音をし、基本的に全文を書き起こし、相互に吟味・事実関係の確認を経て記録を仕上げ、共有する。

5廣瀬ディレクターがスライドを作成し、事務局も一緒に検討・最終確認を行う
6各地区の公民館で「つどい」の実施。
スライドと先生の話をもとに情報交換を行う、学びと共有の懇談会。
先生からの問いかけに来場者が応え、来場者からの質問に先生や他の来場者が応え、地域の方が当日お持ちいただいた昔の写真や資料があればそれも交えて情報交換を行う学びと共有の場。

「つどい」終了後のアウトプット
7 公式ウェブサイトでつどい内容の報告を掲載する。
8「広報ましこ」にて報告と次回の告知を行う
9「土祭基礎資料」として地区ごとにアーカイブを作成。構成は「スライド集」「つどい談話録」「聞き取り記録」「資料」の内容とする。土祭関係者や参加作家、そして地域の方に配布する。
10 公式ウェブサイトでも閲覧できるように公開する（2015 年４月以降）
11 土祭終了後、追加踏査などの情報も追加し、簡易製本で「地区ごとの基礎資料」を制作する

③地区ごとの風土・風景を読み解くつどい「報告会」
7 月 20 日（月）駅舎多目的ホール
13 地区のつどいを終え、各地区で出てきた疑問や課題などを追加調査し、それを各地区のみなさんにお返しするとともに、他の地区の読み解きを、互いに共有しあい、意見交換を行い、自分たちの郷土の風土風景への理解を深めた上で、土祭の参加へと向かう。

［土祭会期中の企画］

④益子の風土・風景を読み解く展示
土祭会期中　田町　元むらた民芸店（土祭本部・総合案内と共有）
このプロジェクトの概要と成果物を展示、あるいは配布することで、来場者に「土祭の作り方」「益子のそれぞれの地域の魅力や歴史」を知っていただく。

⑤土祭風景遠足の実施
土祭会期中に参加者を募り、３つのコースで３回実施する。
展示やイベントのメイン会場にならないエリアにも、魅力的な場所は多く、聞き取りやつどいで町民からあがってきたポイントなどをもとに、コースを設定し、希望者を案内するツアーとする。
「気持ちの良い風景」「心地よい場所」を中心に選び、１つ訴求が強い場所なども盛り込むコースとし、町外からの参加者には益子の風土風景の魅力とその背景を伝え、「気持ちいい」と喜んでくれている様子を地域の方達が見ることで、自分たちの地域を誇りに感じていただく。

補足｜土祭での「風土」の定義
土地の自然に人がはたらきかけて形づくってきたものであり、自然と人の心身が結びつき、土地の自然と人のいとなみの全体が、風土であると考える。（土祭風土形成ディレクター　廣瀬氏）

3-3　風土・風景の読み解きを活かすということ

１土祭の企画に活かす

土祭 2015 のプログラム個別企画書には、ほとんどすべてに「基礎とする益子の風土・風景の読み解き」という項目を設け、どの地区のどんな聞き取り内容が、この企画の基礎となったのかを記載しています。

数例をあげると
農家の方たちの土地利用にまつわる工夫や苦労話、原発事故以降の土壌の問題や課題にまつわる話から、セミナーのテーマの１つ「農業・土壌・循環」が生まれ、伝統芸能を継承している方達のお話からは「音楽・奉納・伝承」というテーマが生まれました。
また、各地区のつどいで必ず盛り上がる話題が、年配の方達を中心に「かつて澄んでいた川にいた魚」のこと。ある農家の方からは、かつてきれいな流れに咲いていた「コウホネ」のお話があり、日下田藍染工房の日下田正さんからは、水がきれいなころは藍染めの布を川で洗い、布から水にしみ出す「糊」を魚が食べるという循環があったことも伺いました。「水」を１つのモチーフに「コウホネ」を象徴とする「ドウメキのコウホネ」というプロジェクトが西明寺地区でスタートしました。

つまり、土祭の「企画者」として実に多くの町民の方々が参加をされていることになります。

２土祭以降に活かす、新しい民藝運動としてのプロジェクト

「アートイベントによる町おこし・地方活性」ということが言われ始めて久しく、多くの土地でさまざまな取り組みが行われています。益子町には、どのような方法が良いのか。一時的な「にぎわい創出」ではなく次に確実に繋げていくには、どのようなしくみが必要なのか。模索を続けながら、１つのヒントになるのはやはり、民藝運動の拠点であったということです。民藝運動とはいわば「新たな価値を見いだす」運動でもありました。その延長上に「風土・風景を読み解くプロジェクト」を位置づけることで、次に繋がること・繋ぐべきことが、よりいっそう明確になってくる手応えを感じ始めています。

また、「一時的なにぎわい」ではなく、持続するしくみを考える時、その原動力として、その土地の人たちが楽しめることをまず大切にしたいと考えました。そして、今日と明日からの「暮らし」に何か１つでも希望の種や芽が見いだせること。上や外からではなく、暮らす人の足下から立ち上がること。土祭を利用して地域ごとに自主的な取り組みが立ち上がり、その企画や取り組みや気持ちよく整えられた環境を、土祭で訪れる町外からの来場者の方達が喜んでくだされば、それはまた地域の方達の誇りや喜びになり、続いていく活力になります。また行政の場では「風土・風景を読み解く…」を中心とした土祭の取り組みは、例えば総合政策策定のワーキンググループや道の駅準備室などと共有し連携をとり始めています。
そして、町民の方々の「記憶」「土地に根ざした生業の立て方」「葛藤」「希望」「挑戦」「夢」は、そのどれもが切実で明日へと繋ぐべきものだと感じています。ひとりひとりの暮らしの、生きることの、重さと大切さ。そこから、土祭 2015 の概念を表す表現「この土地で生きることの祭り」が生まれました。

3-4　土祭の概念と方針

「そもそも」に立ち返ることから始めた３回目の土祭、概念と方針を企画書から抜粋してお伝えします。

１．土祭 2015 の概念

土祭とは何か定義する

益子の風土、すなわちこの土地の自然と、自然に人がはたらきかけて成してきた健やかな暮らしのいとなみ。それを引き継ぎ、この土地ならではの豊かさを増し、次代に受け渡すための祭。

メインコピー

この土地で生きることの祭り

先人から引き継ぐ風土が人を育み、人のいとなみがまた、新しい風土をつくる。
益子の風、水、土、そして生をわかちあい、生きることの深みを増し、未来につなぐ。

２．土祭 2015 の方針

風土と暮らしから発想する

町や地域の風土を読み解きながら、その風土の上で、これからの時代の生き方、暮らし方を考え、探る…新しい祭りとして考える。作家の展示も、土地の風土性を深く読み取った上での表現とする。

地域社会の可能性を開く

土祭をきっかけに、地域ごとの自主的な取り組みを進め、深めることで、より豊かな地域経営の実現をはかり、そこから生まれる地域の魅力を来場者とわかちあう祭りとして育てていく。

益子と他の地方ひいては世界をつなぐ

町内で閉じて完結するのではなく、土祭に通じる志向を持つ町外の他地域とダイレクトに繋がり、触発しあえる関係を築きながら、地方活性の手がかりを探る祭りとする。

風土の進展を視野に入れ果敢に実験を行う

先人の知恵や歴史を踏まえた「未来へのチャレンジの場」と位置づける。

以上のことを「祭り」として行い、風土と文化の継承と進展に取り組む

土祭は、誘客イベントとして「ものを売ること」「動員数」「販売数」などを主眼とするものではなく、「益子という土地の魅力を深掘りし、この町や地域の風土や歴史に由来する本質的な魅力を表現し、伝え、わかちあっていく「祭り」として位置づける。

４．土祭 2015 の内容について

３回目の土祭において「この土地で生きる」ことは、「継ぐこと」「識ること」「澄ますこと」「照らすこと」そして「結ぶこと」と考え、この５つの動詞のキーワードに沿ってプログラム内容をお伝えします。

４-1　５つのテーマとプログラム概要

この土地で生きる

その基礎を地域ごとに細やかに読み解いていく風土とする。

「益子の風土・風景を読み解くプロジェクト」

継ぐ

手仕事の知恵や思想、技術を継ぎ、他の地域や次代に渡す。

展示「益子の原土を継ぐ」会場：陶芸メッセ内 旧濱田邸

益子で採れる原土を用いて陶芸家や染織家など 28 名が新しい表現に挑戦し発表を行う。メンバーが会議を重ねる過程で語り合う「土の特性とそれに対する制作の工夫」などはすべて記録し共有していく。

→参加作家については後述。

土祭市場「益子手仕事村」会場：陶芸メッセ 芝生広場

農業・窯業だけでなくさまざまな作り手が暮らす益子町で、農産物・加工品、木工、布、革などの手仕事品の物販、作り手によるワークショップや制作工程の一部を公開するオープンスタジオなどを行う。関連自主企画として、光る泥団子作りのワークショップなども併催する。

会場設営

近隣の竹林から間伐を兼ねて切り出した竹を用い、町内の年配の方々から「縄の縛り方」の教えを請い、「縄の縛り方のワークショップ」を開催しながら知恵と技術を引き継ぎ、竹テントを制作・設営する

関連した陶芸メッセの企画として

・濱田庄司がデザインして益子の職人が制作をした工芸品や家具の展示（陶芸メッセ内陶芸館第３展示室）

・濱田庄司が影響を受けたディッチリング博物館キュレイターズトーク（陶芸メッセ内国際交流館アトリエ）

後述の 05 セミナー企画のテーマにおいても、益子の風土・風景を読み解くプロジェクトの中で地域の方々と掘り起こしてきた「継ぐ」べきものを汲んだ内容にしていきます。

識る

先人の知恵や思想を識る、新しい道を識る、これからの自分を識る。

セミナー「益子風土学セミナー」 会場：旧松原飯店

地域ごとの風土・風景を読み解くプロジェクトの聞き取りなどで浮き彫りになってきた課題の中から、これからの暮らしのプラスになると考えられるテーマを設定して、町外の専門家と町内の実践者との組み合わせで、新しい気づきや発見、具体的な道が見いだせるようなトークセッションを行う。

テーマ予定｜①農業・土壌・循環　②民藝・工芸・産地、作ることと売ること ③風土と音楽・芸能の伝承

⑤自然エネルギーと地域経営　⑥益子の光

→登壇講師などについては後述

演劇「花音」 会場：山本 八幡神社

鎌倉を拠点に活動する ROOT CULTURE が制作した男女二人芝居（女優に鎌倉出身の鶴田真由さん）の演劇作品を山本地区の神社境内で上演する。これまでに鎌倉、伊勢神宮外苑、別府で上演を行い、脚本の一部は公演地の歴史や風土をもとに書き換えられている。土祭での公演でも脚本家の明神慈氏が山本地区での風土・風景を読み解くプロジェクトでの聞き取りなどをもとに脚本を更新する。

上演日：13 日（八幡神社例大祭での奉納公演）14 日（通常公演）

澄ます

耳を澄ます、五感を澄ます、水を澄ます、いのちを澄ます。

「西明寺原風景　ドウメキのコウホネ」 会場：西明寺地区の休耕田一帯・西明寺境内など

まちなかを流れる百目鬼（どうめき）川の源流と上流を有する農村地帯。北と南の植物が同居する希有な山・高舘山には、中世にルーツを持ち「水」にまつわる伝説も多い古寺・西明寺が残る。歴史ある時間軸とゆるやかな起伏のある里山の空間軸の中で、作家展示、パフォーマンス、ワークショップなどをおこなう。また、水環境の変化によって絶えてしまい、地元の年配の方々が復活を夢見ている「水草コウホネ」を西明寺地区で行う企画全体の象徴として掲げる。地域の自主企画として、4 月 4 日に地域の休耕田の土を掘り起こし、40~50 年前の土層に埋蔵されていると考えられる種子の発芽を促す「天地返し」を実施した。

→参加作家については後述。

照らす

表現を通して、今の時代に生きる人の心を照らし、行き先を照らす。

土祭表現　作家の展示　会場：本通り・城内・道祖土・上大羽・西明寺

益子在住・出身および益子町と縁のある作家 19 名と 1 組、計 22 名の表現者の展示を行う。

第 1 回第 2 回と比して、今回の特色は、土祭 2015 の方針にもとづき行う、以下の 5 点。

ｉ 参加作家は、風土・風景を読み解くプロジェクトの基礎資料の読み込みや地域の方への

聞き取りなどを通して、表現の企画を立ち上げていく。

ⅱ 地域風土を学びながら、益子の子ども達が表現者として参加をする。

ⅲ 地域の風景の中での表現として野外展示を増やす。

ⅳ 展示会場の環境整備などについては、地域の方達が作家とともに交流しながら進めていく。

ⅴ 作家が作品について語るアーティストトークを行う。

→参加作家については、後述。

結ぶ

人と場を結ぶ、場で人と人を結ぶ、地域と人を結ぶ。

映画・映像上映「まちなか映画館　復活、太平座」 会場：新町ヒジノワスペース

かつて益子にあり「映画を観に行く」という行為を通して町の社交場にもなっていた「まちなかの映画館」を会期中に旧市街地に出現させ「ともに観て語り合う場」をつくる。地元の自治会や町内の映画自主上映サークル、外部専門家などで「日替わりの支配人」制とし、上映映画の選定や運営などを行う。

土祭ゲストハウスプロジェクト「結び目をつくる」　会場：城内　路地裏小峰邸

土祭に通じる志向を持つ町外の他地域と繋がるための「益子と他地域との結び目」として、 また町外の人々が益子との繋がりを築くための「訪問者と益子との結び目」として、 空き家となっている歴史ある建物を改修したゲストハウスを運営し、町内の空き家の活用と 地域間交流、さらには移住・定住支援の拠点としていく構想のプロジェクト。 土祭 2015 においては、建物の改修の一部をワークショップ形式で行うとともに、 その建物を会期中に交流の場として活用することで、ゲストハウスを「つくる」過程に 多くの方に関わってもらい、将来の運営に繋げていく。

演奏会「土舞台 月待ち演奏会」 会場：藍の道町営駐車場 土祭広場

2009 年に左官・挟土秀平さんとワークショップで制作した地層を模した土壁をもつ土舞台で、今回も演奏会を会期中に 6 日間、開催する。今回は、第 2 回同様に町内の伝統芸能（雅楽・お囃子・太々神楽など）の奉納だけでなく、さまざまな土地の風土に根ざした音楽活動をしている益子町内や益子ゆかりの方達の演奏も予定している。

・奉納演奏会として開催（伝統芸能） 9/13(日)　9/27(日)

・付け祭りとして開催　9/19(土)　 20(日)　 21(月/祝)　26(土)

益子の食「土祭食堂」 会場：道祖土 カフェ KENMOKU

益子の食「夕焼けバー」 会場：土祭広場特設屋台　13 日 19 日 20 日 21 日 26 日 27 日の 6 日間

会期中に常設する食堂と、土舞台演奏会開催時に特設屋台でオープンする「夕焼けバー」では、

ましこのマルシェ（道の駅開設準備室）などと連携して、益子の野菜を中心に用い、食を通して益子の風土を体感していただけるようにメニューや設えを整える。また、クチナシやビーツなど益子で採れる天然の着色料を用いる駄菓子などを手作りし販売する「土祭らしい縁日の店」も予定している。

4-2 参加作家の紹介

2015 年 4 月 10 日現在での展示作家の情報です。

03「益子の原土を継ぐ」展示作家

阿久津雅土｜陶芸家。1976 年益子町生まれ。益子町小泉在住。1999 年栃木県立窯業指導所伝習生修了。2000 年同　釉薬科研究生修了。2002 年第 4 回益子陶芸展・審査員特別賞

岩下宗晶｜陶芸家。1986 年益子町生まれ。益子町道祖土地区在住。「日々の作陶の中、益子と言う産地を見つめ直し深く勉強することで、現代の自分だから出来る表現を模索、今の益子焼を目指して作陶しています」

岩見晋介｜陶芸家。1964 年東京生まれ。益子町山本在住。多摩美術大学絵画科卒。1995 年益子へ入り、4 年間の修業の後、現在地に築窯独立。韓国、米国、英国など、国際陶芸祭や交流展に多数参加。2007 年よりカンボジアでの釉薬陶器技術移転プロジェクトに関わり、現在に至る。

岩村吉景｜陶芸家。1974 年東京生まれ。益子町道祖土荒久台在住。1991 栃木県窯業指導所伝習生修了。1992 年研究生修了。1995 年現在地に築窯。北郷谷新原土会の参加を機に益子の原土に魅了され、自分で原土を水簸し粘土を作り、益子の土で製作しています。

大塚一弘｜陶芸家。益子町道祖土在住。1966 年益子町 (道祖土)に生まれる。1986 年 清窯(きよしがま)2 代目。2014 年伝統工芸師認定。

大塚誠一｜陶芸家。益子町在住。1981 年益子大誠窯に生まれ。1997 年茂木高校入学。1998 年アメリカモンタナ州のハミルトン高校に単年留学。1999 年東北芸術工科大学入学。2004 年　丹波　柴田雅章氏に 4 年間師事　（四年間）2008 年大誠窯で仕事を始める

大塚雅淑｜陶芸家。1976 年益子生まれ。益子町益子在住。

川崎萌｜陶芸家。1975 年鹿児島県屋久島に生まれ。益子町在住。2000 年鹿児島市窯業所技術課程修了、益子町に移住、益子町窯元勤務。2005 年益子町にて独立。

加藤弓｜陶芸家。1971 年、埼玉県生まれ。「原土プロジェクトの展示では、益子に棲む生き物達を益子で採れた様々な土を使って表現したいと思っています」

加藤靖子｜絵描き。1981 年、益子町生まれ。2004 年文星芸術大学日本画専攻卒業。益子町の年 2 回の陶器市に毎回少しずつ絵を飾るように。2010 年から本格的に絵描きの活動をスタートしました。「今は色鉛筆で絵を描いています。イグアナがよく出来ています」

川尻琢也｜陶芸家。1983 年、益子町に生まれる。益子町城内在住。2007 年、沖縄県読谷村・北窯　與那原正守氏に師事。與那原工房で 3 年間働く。2010 年、益子の実家にて川尻製陶所始める。以後、益子陶器市に毎回出店。

静岡手創り市、アースデイマーケット出店。オーガニックレストラン＆カフェ シャロム(安曇野)、KAJIYA(四賀村)、Tribal Arts(名古屋)　展示。

郡司慶子｜陶芸家。益子町在住。
福岡県生まれ。多摩美術大学絵画学科油絵専攻卒業、栃木県窯業指導所などを経て、夫の郡司庸久氏とともに栃木県足尾に築窯。2015 年益子に拠点を移す。

近藤康弘｜製陶業。1978 年大阪生まれ。益子町大平在住。2004 年榎田勝彦氏に師事。2009 年益子町にて築窯、独立。地域で採れる原料を使っての焼物づくりをこころがける。北郷谷原土会所属。

庄司千晶｜陶芸家。1973 年東京生まれ。益子町大沢在住。鋳込技法を主に用い、磁土のうつわ、オブジェ制作に取り組むかたわら、益子の原土に興味をもち実験を重ねている。土祭 2012『益子の土を用いたそれぞれの表現』に参加。

白石博一｜左官屋三代目。1972 年茨城県古河市生まれ。茨城県古河市在住。左官の伝統技術を軸に自身で試行錯誤した工法を織り込む。近年は国重要文化財の復元、修復を多く施工。伝統漆喰、土壁を得意とし益子桜土など用い公共的な施設にも左官壁を提案する。依頼主との対話を重視。

菅谷太良｜陶芸家。1978 年、京都に生まれ埼玉県日高市にて育つ。益子町大沢に在住。益子の土で「粉引」による白い器を中心に制作。「毎日の生活で使ってもらえて、使う人と共に成長できるような器作りを目指しています」

鈴木稔｜陶芸家。1962 年埼玉生まれ。益子町芦沼在住。 益子で産出する陶土を自ら精製して粘土をつくり、石膏型を用いて成形し、雑木や藁を燃やして作った釉薬をかけて、薪を燃料に窯で焼成。「源流と現代とを融合させた器の製作を行っています」

中村かりん｜陶芸家。益子町七井在住。2008 年栃木県立窯業技術支援センター入所。2010 年 同所修了。栃木県益子町にて独立

中村曙生｜藍染作家。栃木県宇都宮市生まれ、益子町北郷谷在住。共立女子大学短期大学部卒業、桑沢デザイン研究所Ⅱ部グラフィック科修業。1976 年益子町日下田博氏に師事し藍型染めを学ぶ。1983 年益子町にて独立。藍発酵建てを主に草木を用いて染色。

宮田竜司｜1976 年東京に生まれ。益子町小宅在住。1999 年高内秀剛に師事。2006 年益子に独立築窯。2012 年から 2013 年まで、国展入選。個展を中心に活動している。

宮沢美ち子｜染織家。益子町在住。1991 年真岡木綿保存振興会にて講習を受ける。1995 年真岡木綿技術者の認定を受ける。1996 年自宅にて染め、織りを始める。1991 年から 2000 年益子陶芸村の◯△□展。2007 年から 2015 年益子もえぎ本店にて毎年個展を開催。「柿渋染を主にあらたな土染めに挑戦素材を生かした染め、織りを心掛けています」

村澤享｜陶芸家。1979 年益子町に生まれる。村澤陶苑の 5 代目。「益子の素材を使い日常的に使う食器や花器などを作り、ガス窯、登り窯を使用し使いやすい形や色を考え作陶しています」

古田和子｜日本画家。1985 年東京生まれ。山形県山形市在住。2013 年東北芸術工科大学 芸術学部 美術科日本画コース卒業。2015 年東北芸術工科大学大学院 芸術工学研究科 芸術文化専攻 日本画領域 修了。

萩原芳典｜陶芸家。益子町一の沢在住。1974 年、はぎわら窯 5 代目として生まれる。1993 年、栃木県窯業指導所伝習生修了。1994 年、栃木県窯業指導所研究生修了作陶を始める。1998 年より個展、グループ展年数回を行い。これまで国展にて入選、入賞する。ボストンにて個展とワークショップを行う。

若杉集｜陶職。1948 年 埼玉県浦和市生まれ。益子町北益子在住。1973 年千葉大学工学部工業意匠学科卒業。1977 年 益子町北益子に築窯し独立。1987 年頃から焼締急須を中心に制作。2004 年 第 5 回益子陶芸展 濱田庄司賞受賞。2012 年 の土祭では 「益子の土を用いたそれぞれの表現」に出品。

……

08/09 展示

浅田恵美子｜あさだえみこ　陶芸家　益子町大沢在住
1953 年京都に生まれる。1978 年栃木県益子に築窯。個展、グループ展、研修への参加は、益子を中心に日本各地、韓国、中国、アメリカ、フランス、オランダにて。

大田高充｜おおたたかみつ　京都府在住
1980 年生まれ。成安造形大学卒業。場所・土地・環境から発生する固有の自然現象に注目した作品を制作。2009 年土祭では粘土を用いた作品を、土祭 2012 では道具屋前板蔵でプロペラと落葉を用いた作品を発表。

川崎義博｜かわさきよしひろ　アーティスト
1951 年日本生まれ。日本のフィールドレコーダーの草分け的存在。世界各地で「音」を収録し,作品を制作。世界の音が聞こえるサイト「Sound Explorer」、日本科学未来館のプラネタリウム番組《夜はやさしい》などを制作。

川村忠晴｜かわむらただはる　造形作家　東京都在住
1948 年東京生まれ。大学卒業後、民法 TV 局にてドラマ演出に携わり退社後は信州高遠の山村に移住し晴耕雨読の田舎暮らしを体験。その後、東京に戻り造形活動を始め、主に植物を使った灯りの作品展を行っている。土祭 2012 では、城内坂の日下田藍染工房にて灯りのインスタレーションを担当。

KINTA｜きんた　造形家　益子町下大羽在住
1960 年生まれ。20 代中頃まで主に絵画制作にて展覧会。その後、土、木、鉄を素材に制作、東京、益子など各地にて展覧会。第一に素材との対話により生まれるものを作品制作のコンセプトとし益子にて活動中。

栗山斉｜くりやまひとし　美術家　茨城県取手市在住
1979 年兵庫県生まれ。2011 年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了 博士（美術）。「無」と「存在」について作品制作を通じて探求。近年では「0=1」という独自の仮説を打ち立て、「無」と「存在」が同等であることを作品によって実証する試みを行っている。

小春丸｜こはるまる　華道家　茨城県土浦市在住ｋ
流派にとらわれない自由な発想と作風で木工作家や陶芸家とのコラボ展示や、個展、生け花ライブなど幅広く活動。日常から花に触れエネルギーを感じること、それをいける喜びを伝えている。2013 年 4 月に益子町陶芸メッセ内・旧濱田邸にて個展「花」を開催。

澤村木綿子｜さわむらゆうこ　造形家　栃木県茂木町在住
造形家。1976 年埼玉生まれ。糸や布で作られたクマやオオカミなどの生き物を身に纏う作品「いのり」を作り続けている。「いのり」と自作の紙芝居や音を使い、各地で土地の住人や旅人とともにパフォーマンスをしたり、「ポラーノ」としてアクセサリーも作る。

高山英樹｜たかやまひでき　木工家具作家　益子町下大羽在住
1964 年石川県能登生まれ。文化服装学院卒業後、都内で舞台衣装や布のオブジェを制作。のちに、北米、中米、アジア、ヨーロッパなどを旅しながら、国内で内装や家具の制作も手がける様になる 2002 年益子町に移住。最近では、自分で手作りした家が縁で、国内外の作家との交流が盛んになっている。

Douglas Black｜ダグラス・ブラック　芸術家　栃木県茂木町在住
1967 年米国生まれ。'92 年茂木町に築窯。’93~’97 遊星社の舞台美術、出演、陶芸作家として携わる。'96 INAX XSITEHILL「土の音」インスタレーション。’14 二期倶楽部 山のシューレ。 ギャラリーいわき 個展。 作陶を主にオブジェなどにも情熱を持ち続けている。 近年は韓国、タイ、マレー シアなどにも活動の場を広げている。

仲田智｜なかたさとし　美術家　茨城県常陸大宮市在住
1962 年生まれ。1987 多摩美術大学絵画科油画専攻卒業 1989 多摩美術大学大学院美術研究科修了 2003~2007 多摩美術大学非常勤講師 2010~　横浜美術大学非常勤講師 y DEE'S HALL（東京）STARNET ZONE（益子）など個展多数。

生井亮司｜なまいりょうじ　彫刻家　美術教育哲学者　栃木県小山市在住
1974 年栃木県生まれ。1998 年武蔵野美術大学卒業。2009 年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。乾漆技法を用いた彫刻作品の制作、発表。また制作を基盤とした美術教育理論の研究も行っている。現在、武蔵野大学教育学部准教授。

橋本雅也｜はしもとまさや　彫刻家　神奈川県相模原市在住
1978 年岐阜県高山市生まれ。独学で彫刻の技術を習得し、制作を続ける。主な個展に 2011 年「殻のない種から」（主水書房）2014 年「間（あわい）なるもの」（金沢 21 世紀美術館）、「一草一木」（ロンドンギャラリー）

藤原彩人｜ふじわらあやと　彫刻家　益子町大沢在住
1975 年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2007-2008 年文化庁在外派遣研修員として英国ロンドン滞在（V&A 美術館）。 主に陶を用い、人のカタチ、存在を知覚することを目的とした彫刻表現を行う。さらに彫刻の考察を主題とした教育目的の活動を行う AGAIN-ST や、アーティストコミュニティーと地域との関わりを確立するべく、一般社団法人 A-PLUS の活動など、彫刻を軸としたプラットフォームの確立に関わっている。

古川潤｜ふるかわじゅん　彫刻家　益子町上大羽在住
1967 年栃木県生まれ。1991 年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。石彫を中心とした活動を経て 2000 年頃より木や金属などを扱い立体造形全般、デザイン、展覧会企画なども含め造形活動の幅を広げる。

町田泰彦｜まちだやすひこ　建築家・文筆家　益子町大沢在住
幼少期を四国やニュージーランドなど自然が豊かな都市で過ごす。2005 年に北鎌倉より益子に移住。建築の仕事の傍ら短編小説執筆や映像作品の制作も行う。土祭 2012 では「たてものプロジェクト」に参加。

村田昇｜むらたのぼる　写真家　東京都在住
1950 年東京生まれ。30 年以上さまざまな分野で広告や雑誌などの撮影を行う。益子には 15 年以上通い、風景や陶芸家などの姿を通して土地の風土を追い続けている。著書に『Japan Style』(Tuttle Publishing)など多数。

Project RECON｜プロジェクト・リーコン
2014 年、鉄道部品の廃材を利用したインテリアの制作・展示をきっかけに、田中一平、田村洋介、伯耆田卓助によるリメイクインテリア制作チーム「Project RECON」を結成。「Reconstruction（=再構成）」をコンセプトに様々な分野の廃品に素材を求めて制作活動を行っている。

……

川本直人｜かわもとなおと　映画作家
1988 年広島県生まれ。瀬戸内海の生口島で育つ。海を撮影したフィルムにシネカリグラフィーを施した『渦潮』が第 62 回ベルリン国際映画祭に入選。海辺等で野外上映を行う『瀬戸田映画祭』 を故郷で主催するなど、瀬戸内をテーマにした表現活動をおこなっている。

＊今回は、「川本直人と益子の子どもたち」としてワークショップを行い、益子町内の小学生とシネカリグラフィーを制作し発表を行う。

佐野陽一｜さのよういち　美術家　東京都在住
1970 年東京生まれ。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科非常勤講師。。90 年代半ばよりピンホール・カメラの手法による写真作品の制作を開始。「Japan meets China」栃木県立美術館、「日本の新進作家展 vol.10」東京都写真美術館、他個展、グループ展多数。

＊今回は「佐野陽一と益子の子どもたち」として、益子町内の小学生とともにワークショップでピンホールカメラ制作と撮影・プリントを指導し、展示を行う。

4-3 日程の構成

新月の初日から満月の最終日まで。2015 年 4 月 13 日時点での予定です

9 水	展示搬入最終日・のぼりなど設置終了
10 木	メディア向け内覧会・先行取材、スタッフ・作家向け内覧会
11 金	同上
12 土	最終チェックと修正

【会期日程】		【常設】	【イベント】	【土祭広場】
13 日	初日・新月	常設として 10 時–17 時 ・展示 ・まちなか映画館 ・手仕事村：市場やワークショップ ・土祭食堂 メッセ休館日も メッセ会場内の 土祭企画は開催。 25 日（金）展示延長 ナイトツアー	開幕の儀、演劇「花音」	演奏会　夕焼けバー
14 月			演劇「花音」/風景遠足 1	
15 火				
16 水				
17 木				
18 金	ミチカケ発送			
19 土				演奏会　夕焼けバー
20 日	ミチカケ発行日		益子風土学セミナー①	演奏会　夕焼けバー
21 月祝			益子風土学セミナー②	演奏会　夕焼けバー
22 火祝			風景遠足 2	
23 水祝	秋分		益子風土学セミナー③	
24 木				
25 金	十三夜		益子風土学セミナー④	
26 土			益子風土学セミナー⑤	演奏会　夕焼けバー
27 日	中秋		風景遠足 3	演奏会　夕焼けバー
28 月	満月・メッセ休			クロージング（観月会）

4-4 会場の構成

展示やイベントの会場とするエリアは、
前回 2012 年の会場
［本通り・城内・藍の道土祭広場・道祖土・上大羽］に、新しく［西明寺］が加わり、
城内の陶芸メッセ美術館内の旧濱田邸・芝生広場なども展示や市場の会場となります。

また、山本地区では、八幡神社にて初日と 2 日目に演劇公演を行い、
北の七井・小宅地区、南の田野地区、西の塙・星の宮地区なども、
「土祭風景遠足」のコース・会場として来場者のみなさまをご案内します。

５．土祭 2015 チームメンバー

実行委員長｜益子町長　大塚朋之

■土祭実行委員会

副委員長　外池茂樹（観光協会）、法師人弘（副町長）、黒子秀夫（議長）、岡良一郎（教育長）、飯塚洋（商工会会長）、廣田茂十郎（農畜産物振興協議会）、高松勝則（自治会長連絡協議会）、船坂公男（文化協会）、大塚恵子（女性団体連絡協議会）、林香君（文星芸術大美術学部教授）

■土祭企画運営委員会

当係職員（土祭事務局）と町民（ワーキンググループ・地域リーダー）、２名のディレクターで構成する

土祭風土形成ディレクター｜廣瀬俊介

環境デザイナー、風土形成事務所主宰・東京大学空間情報科学センター協力研究員

土祭表現ディレクター｜川崎義博

サウンドデザイナー　東京藝術大学先端芸術表現科　非常勤講師

□ワーキンググループ

小玉貴浩（益子町山本｜農業｜演劇「花音」進行、山本地域リーダー）
大塚一弘（益子町道祖土｜陶芸家、展示「益子の原土を継ぐ」企画・進行）
塚本ゆ美子（益子町城内｜陶器販売店、作家展示、ゲストハウスプロジェクト）
仲野信吾（益子町上大羽｜自営、「夕焼けバー」など企画進行）
高山英樹（益子町下大羽｜木工作家、「小屋プロジェクト」企画、作家展示アドバイザー）
町田泰彦（益子町大沢｜建築家・文筆家、演劇「花音」「ドウメキのコウホネ」企画ほか）
高田英明（益子町大沢｜大工棟梁、会場設営企画およびディレクション）

□地域リーダー

法師人和哉（新町）豊田英雄（田町）植田光司（内町）大塚ゆかり（城内）
神谷耕司（道祖土）山崎善生（西明寺）黒子善久（大羽）

□土祭事務局

局長・産業建設部長　高野貞夫、次長・観光商工課長　高濱文夫、係長・加藤優子
企画立案推進　プロジェクトマネージャー：簑田理香
制作・運営・進行リーダー：増田興二
制作・運営・進行：萩原潤、今井知弘（地域おこし協力隊）

□大学との連携

東北芸術工科大　建築・環境デザイン学科　田賀陽介准教授（空間構成ほか）
宇都宮大学（2015 年度より連携内容検討中）

□アートディレクションとデザイン：ガイドブックほか｜Takuu Tuore　須田将仁
□ウェブサイトのデザイン・制作｜TRUNK 笹目亮太郎・小池隆夫、モノダム 吉原包敏
□サイン関連デザイン・制作｜TRUNK 笹目亮太郎・助川智美・小池隆夫
□ワークショップや制作協力｜アイシオール　多田君枝・豊永郁代

この土地で生きることは

継ぐこと、識ること、澄ますこと、照らすこと、結ぶこと…

そして、伝えること

3 回目の益子町の土祭、周知にご協力を　どうぞよろしくお願い致します。

今後の情報発信につきましては
公式 Facebook ページ「土祭」および、公式ウェブサイトもご高覧ください。
公式ウェブサイトは 4 月末に一部リニューアル、7 月に詳細の更新を予定しております。
これから作家と地域方々との準備作業や、ワークショップなど
さまざまなことが動き始めます。

新しい情報は、メールにてお送りさせていただきたいと思います。
お手数ですが、一度、以下のアドレスに「土祭情報送信希望」として
メールをお送りいただければと思います。
イベントなどの詳細も確定次第お知らせしていきます。

お問い合わせ｜益子町産業建設部観光商工課土祭事務局
TEL　0285-72-8873 平日 8:30-17:15　E-mail　info@hijisai.jp

どうぞよろしくお願い致します。
土祭事務局　広報宣伝担当　簑田理香　増田興二